

1 題材名 はしをたたくもとう

2 目標

- 正しい箸の持ち方で食事をしようとする。（関心・意欲・態度）
- 正しい箸の持ち方が分かり、正しい箸の持ち方で練習することができる。（思考・判断・実践）
- 正しい箸の持ち方の利点が分かり、正しい箸の持ち方は楽しい食事につながる事が分かる。（知識・理解）

3 題材設定の理由

箸の持ち方や食器の並べ方、話題の選び方などの食事のマナーは、相手を思いやることであり、楽しい食事にするための大切な要素である。和食の食事作法の中で、箸の役割はとても重要である。料理の多くは箸で食べるため、箸の持ち方や使い方がきちんとできていると料理が食べやすく、周囲にも好印象を与える。また、間違った持ち方や使い方は周囲に悪い印象を与えると同時に、成人してから一度身についた間違った持ち方や使い方を治すのは多大な努力を要する。正しい箸の使い方を子どものうちにきちんと身に付けておきたいと考える。

そこで、小学校第1学年で正しい箸の持ち方を理解し、正しい箸使いをしようとする態度を育てたいと考え、本題材を設定した。

4 児童の実態について

本学級の児童は、給食の時間を楽しみにしている。配膳や準備・片付けにも慣れ、食事にやや時間がかかる児童がいるものの、楽しく会食している。しかし、食べ方やマナーについては、まだ十分に身に付いていないのが実態である。

【実態調査】

平成〇年〇月〇日 第1学年〇組 30人調べ

1	普段食事の時、何をすることが多いですか。（複数回答）	箸 28人	スプーン 8人	フォーク 4人
2	箸の正しい持ち方を知っていますか。	知っている 27人	知らない 3人	
3	箸の持ち方に気を付けていますか。	いつも気を付けている 5人	時々気を付けている 19人	気を付けていない 6人
4	箸の正しい持ち方ができますか。（教師からの観察）	できる 2人	できない 28人	

実態調査では、ほとんどの児童が普段の食事でも箸を使っており、「正しい箸の持ち方を知っている。」「箸の持ち方に気をつけて食べている。」と答えている。しかし、教師からの観察では、箸の正しい持ち方ができているのは、2名であり、正しい箸の持ち方がよく分かっていない児童や、箸の持ち方に気を付けていない児童がほとんどであることが分かった。

そこで、マカロニや豆などを皿に移し替える活動を通して、正しい箸の持ち方で上手につかめることを体験するとともに、正しい箸の持ち方の利点を理解させ、日常生活での実践に向けての意識化を図りたい。

5 学習計画及び評価規準

月 日	過程	活動の場	活動内容	評価規準（方法）
〇月〇日	事前	学級活動	・アンケートを実施する。	・自分の箸の持ち方について振り返ることができる。（アンケート）
		給食	・実態調査（給食時の箸の持ち方）	・箸の正しい持ち方ができる。（観察）
〇月〇日	本時	学級活動	・正しい箸の持ち方を知る。 ・正しい箸の持ち方の練習をする。	・正しい箸の持ち方を理解しワークシートに記入することができる。（ワークシート） ・正しく箸を持って動かそうとしている。（観察）
随時	事後	教室	・「がんばりカード」を使って、実践活動をする。	・正しい箸の持ち方を目指して実践することができる。（がんばりカード）

6 食育の視点

箸の使い方を正しく身に付けることは、相手を思いやることであり、楽しい食事につながる事が分かる。（社会性）

7 本時の指導

(1) 目標

正しい箸の持ち方の利点に分かり、これまでの自分の箸の持ち方を振り返りながら、正しい箸の持ち方を実践していこうとする気持ちを持つことができる。

(2) 準備・資料

- ①箸 ②皿 ③箸・スプーン・フォーク・ナイフの資料 ④調査結果表 ⑤児童の箸の持ち方の写真
- ⑥小クッション ⑦テレビ ⑧箸の動かし方・持ち方の図 ⑨動物の顔を描いた皿
- ⑩大豆 ⑪ビデオカメラ ⑫ワークシート ⑬花丸カード

(3) 展開

◎言語に関する能力を育成するための手だて
指導と評価

学習活動・内容	資料	指導と評価	
		T1	T2
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 食事をする時にどんな道具をどのようにして使うのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はし→はさむ, 切る, すくう… ・スプーン→すくう, まぜる… ・フォーク→さす, 切る… ・ナイフ→切る… <p>(2) 箸の持ち方の実態を知る。</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物を口に運ぶ時に使う道具を考えるよう助言する。 ・普段の児童の箸の持ち方の写真と調査結果を提示し児童が自分の身近な問題として捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箸, スプーン, フォーク, ナイフの資料を提示しながら, 児童にヒントを示す。 ・箸が一番使い方があることを気づかせる。
<p>2 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">はしをただしくもう。</div>	<p>⑥</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を全体で読み, 箸の正しい持ち方について学習することを意識づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に課題を読み, 児童とともに学習することを伝える。
<p>3 正しい箸の持ち方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい持ち方 ○ ・間違った持ち方 × ・上の箸を鉛筆と同じようにして持つ。 ・下の箸を差し込み, 親指の付け根と薬指で固定する。 ・下の箸は動かさず, 上の箸を3本の指で動かす。 ・箸を持ち, 動かす。 	<p>⑦</p> <p>⑧</p> <p>⑦</p> <p>⑧</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手元がよく見えるようにテレビ画面に大きく映し出す。 ・どこが違うのかを児童に問いかけ, 持ち方が違うことに気付かせたい。 ・箸の動かし方の図を黒板に提示する。 ・全体指導の際, 上手にできない児童に支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手元がよく見えるようにテレビ画面に大きく映し出す。 ・正しい箸の持ち方をテレビ画面に映しながら, 児童と一緒に箸を動かして確認, 指導する。 ・左利き児童への指導も加える。
<p>4 正しい箸の持ち方を練習する。</p> <p>(1) 箸でつまんで皿から別の皿へ移し替える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりで ・おとなりさんと <p>(2) テレビに映った画像を見ながら, 正しい箸の持ち方を全体で確認し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい持ち方 ○ ・間違った持ち方 × 	<p>①</p> <p>②</p> <p>⑥</p> <p>⑨</p> <p>⑬</p> <p>⑩</p> <p>⑪</p> <p>⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移し替える皿には動物の顔を描いておき, 口の部分に移すようにすることを伝える。 ・教室の左半分(123班)を中心に個別指導にあたる。 ・デジカメで箸の持ち方を写し, 後で, 印刷したものをワークシートに貼ることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箸でつまんで皿から別の皿へ移し替える手本を演示する。 ・教室の右半分(456班)を中心に個別指導にあたる, ・正しく持てたら花丸カードを渡す。 ・全体指導の際, 上手にできない児童を支援する。
<p>5 今日の学習で分かったことや感想をワークシートに記入し, 発表する。</p>	<p>⑫</p>	<p>◎今日のまとめと感想を書くことで, 正しい箸使いをしようとする実践意欲を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よい気付きができた児童を賞賛したり, 今後正しい箸の持ち方ができるように励ましたりする。
		<p>◎正しい箸の持ち方で食事をしようとする意欲をもつ。</p>	<p>(ワークシート・発表)</p>

8 事後への配慮事項

今後の給食の時間に進んで正しい箸の持ち方ができるように児童を励ましていくとともに、本時の学習内容を学級便りで知らせ、家庭においても進んで正しい箸の持ち方ができるようにする。